



東京歯科大学千葉病院医療連携NEWS デンタルドットコム

2012年1月

春隣号

東京歯科大学千葉病院 医療連携室 発行
TEL 043-270-3279 / FAX 043-270-3648
URL: <http://www.tdc.ac.jp/hospital/ch>
デンタルドットコムのバックナンバーはホームページからもご覧になれます。



本年も宜しく
お願い申し上げます。

年末年始のお知らせ

休診日：12月29日（木）～ 1月4日（水）

○年末の診療日：12月27日（火）まで通常通り
12月28日（水）午前中のみ

○年始の診療日：1月 5日（木）より通常通り

休診中の連絡先：043-270-3700

【急性期神経機能修復外来】の設置

やたらと難解な名称になりましたが、要は手術的に神経修復を行う部署です。顎顔面領域の知覚・運動神経の障害は、程度によって既存の『慢性の痛み・しびれ外来(ペインクリニック)』では改善の見込めない場合があります。例えばインプラント埋入時に下歯槽神経を誤って貫いたとき(写真)、投薬のみでは埒が明かず、早期のインプラント除去と神経縫合術が必要となります。慢性難治性疼痛と長期の神経麻痺を薬物療法するのとは異なり、受傷数カ月以内の急性期の症例が対応となります。

最近、下顎埋伏智歯の抜去、補綴前外科手術、そしてインプラント植立手術などの偶発症として下歯槽神経や舌神経の障害症例に多く遭遇します。2006年に術後神経障害を訴えて来院された患者は24名(総新患者8441名の0.2%)、2010年には51名(総新患者8297名の0.6%)に上りました。

神経障害は、手術に万全を期しても起こり得る病態です。対応を誤ると訴訟にも成りかねません。適切で速やかな判断が必要ですので、安易に考えず是非相談をしてみて下さい。ご期待に沿える外来です。



下歯槽神経を貫いているインプラント体

急性期神経機能修復外来 代表 柴原孝彦
043-270-3901 (口腔外科受付)

【顎顔面補綴外来】の設置

平成23年現在、顎顔面補綴外来は、歯学部附属病院11院、医学部附属病院15院に設置されております。これは、医学部附属病院における顎顔面補綴の需要の多さを表しております。しかしながら、医学部附属病院歯科では顎顔面補綴の専門医が顎顔面補綴治療を供給する状況にありません。

一方、歯学部附属病院における設置状況は29歯学部附属病院中11校に留まっておりますが、これは顎欠損に対し補綴科、口腔外科、摂食嚥下外来などが各科毎に対応している状況が予想されます。近年、顎顔面領域における悪性腫瘍の症例数は増加傾向にあり、今後もその傾向は継続すると予測されており、顎補綴装置などの症例数も増加してまいりました。

この様な環境に対応すべく、当専門外来には補綴科、口腔インプラント科、口腔外科、摂食嚥下リハ科さらに本校市川総合病院からエキスパートを所属させ、包括的な診療の提供が可能な体制を整えました。ご相談のみでも結構ですので、是非ご連絡いただきたいと思います。



顎顔面補綴外来 代表 石崎憲
043-270-3933 (補綴科受付)

口腔がん検診 (H23年度)



1月22日:香取市
(香取市歯科医師会 主催)

平成23年度 医療連携委員会メンバー

千葉病院医療連携委員

委員長：柴原孝彦
副委員長：矢島安朝
顧問：高野伸夫
櫻井 薫
相馬克己

委員：浦田知明、大久保剛、大久保真衣
太田幹夫、大畠 仁、佐々木穂高
杉山利子、武田友孝、間宮秀樹
三穂乙曉、村上 聰、村川 孝
茂木悦子、薬師寺孝、山内智博
米津卓郎、和光 衛

学外委員

浅野薰之、板谷賢二、伊藤修一
大越 学 齋藤浩司、齋藤祐一
中澤正博、原 昌嗣

五十音順(2011年12月現在)

ワークショップ テーマ:「口のケアについて」



摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科
准教授 石田 瞳

「口のケア」は、基本概念、基礎疾患、手技などテーマを挙げると大変幅が広く、ポイントを絞ることが重要です。今回のワークショップでは、初めて地域歯科医師会の先生とのジョイント形式としました。このため千葉病院を含め、地域で求められる口のケアに関わる議論が期待されました。

パネリストは、地域からは千葉市歯科医師会の地主明弘先生より、市内の病院で口のケアの質的向上を支援する活動が、入院患者の誤嚥性肺炎予防に貢献し得るという報告をいただきました。千葉病院側からは、昨今増加の途をたどる癌患者に対する口のケアの重要性を口腔外科・山内智博先生より、院内のみならず地域に訪問診療として口のケア、摂食・嚥下リハビリテーションを実践する歯科衛生士の活動を長澤恵子さんより、いずれも最新情報の提示をいただきました。

それぞれの発表に対し、参加者から活発な意見をいただき、口のケアの重要性を考える良い機会となりました。

ワークショップ 演題1 「地域医療における口のケア」

今回千葉県が公募した8020運動推進特別事業のうち、病院入院患者口のケア普及推進事業を活用して、千葉市内の歯科の無い病院において看護師等を対象として、入院患者の誤嚥性肺炎などの合併症の予防、QOLの向上・在院日数の減少を目的とした啓蒙活動を行った。

1. 市内の病院にアンケートを郵送し現状把握を行い、モデルケース実施の参考とした。
2. モデルケースとして、千葉市花見川区平山病院・中央区三愛記念病院の協力を得て、講習会、実習を共に各2回づつ開催した。また参加者に対しての事前と事後のアンケートも行った。



千葉市歯科医師会
地主 明弘

3. 市内全域の病院関係者を対象とした講習会を開催し、テキストとしてモデルケースの経験を参考とした口腔ケアハンドブックを作成して使用した。同時にモデルケースの病棟看護師による報告も発表され、その内容は、研修会後の口のケアへの取り組みの変化・実際の症例の提示等の報告があった。

本事業を実施したことによりモデル病院で独自の評価表の作成や、看護記録の中に口腔ケアの項目が追加されるなど前向きに取り組んでいる姿勢が伺えた。

多職種との連携及び病院関係者の口腔内に対する意識の向上による、歯科医療機関に対する、診療依頼に対応した病院と歯科診療所との連携システムの構築の必要性を認識した。

事前アンケートの結果、職種は看護師・看護助手が大半を占めたが、その他理学療法士・栄養士・ヘルパー等多職種の参加も得た。注目すべき点としては、口腔清掃状態と全身疾患との関係については、32%が知らないと回答した。

事後アンケートの結果、講習会以降の口のケアの変化として、意識が変わった・時間をかけるようになった・使用器具の変化・患者の口腔内に対する意識の向上があり、唾液分泌量の増加による乾燥の改善・口臭減少等の回答を得た等、良好な回答を得た。



歯科衛生士
主任 長澤 恵子

ワークショップ 演題2 「歯科衛生士の訪問診療への関わり」

超高齢社会となった現在、訪問診療の需要はますます高まっています。本学千葉院に3年前に設置された摂食・嚥下リハ科でも、摂食・嚥下機能の評価やリハビリの要請を受け訪問診療の機会が増加しています。現在、医療連携車により効率的な訪問が行えるようになりました。昨年からは、歯科衛生士も訪問診療に参加し、単独で訪問している12%を含めて全体の25%に歯科衛生士が関わっています。



口腔外科学講座
講師 山内 智博

ワークショップ 演題3 「口のケアはがん治療の質を高めます」

今回の内容は、厚労省や千葉県の方針に基づいた、全身のがん治療上で発症するトラブルを地域の歯科診療所で対応するという、新しい歯科治療の分野です。しかし、なぜがん治療の患者で口腔のケアが必要なのか、その治療に伴う口腔の症状と合わせて理解する必要があります。

デンタルプランクには便に匹敵するほどの細菌(数)が存在します。劣悪な環境である口腔に、がん治療の副作用が発現するわけです。がんの治療の方法と口腔に発現する主な副作用は、以下に示す3つです。

① 手術療法:

多くの場合、全身麻酔を選択して手術を行います。経口挿管を選択する事が多いので、汚染された口腔内を通してチューブが気管内へ送り込まれ、術後肺炎のリスクが高くなると考えられています。

② 放射線療法:

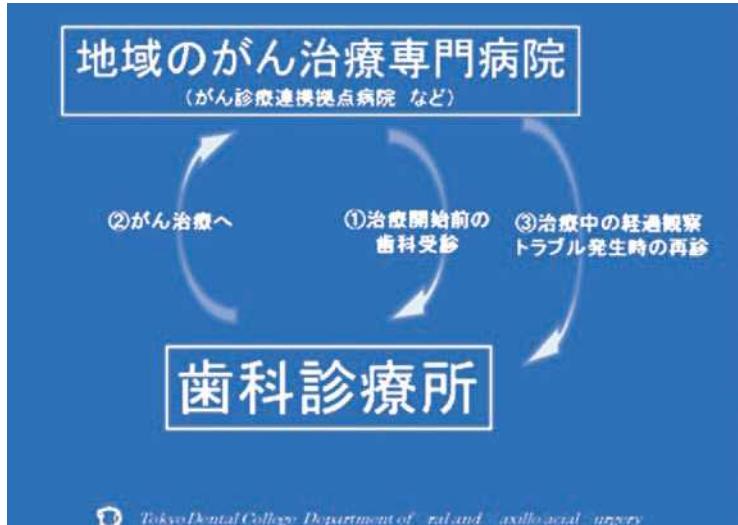
頭頸部がんの場合は、直接粘膜炎が起こります。放射線の照射量としては、10Gy以上で症状が出てきます。口腔内の汚染が著しい場合、二次感染を起こします。また、他部位の照射であっても、白血球の減少(骨髄抑制)により歯周炎の増悪が見られることがあります。

③ 化学療法(抗がん剤治療):

様々な抗がん剤がありますが、その多くはがんに作用するだけでなく、細胞分裂周期の早い組織に副作用をもたらす事が知られています。口腔粘膜のターンオーバーは約2週間と短いため、ターゲットとなり粘膜炎(口内炎)が発症します。また、同様に骨髄にも影響が及び白血球の減少をはじめとする骨髄抑制により、炎症を起こした粘膜に二次感染をもたらす事が考えられます。

上記の様な口腔内のトラブルにより治療の継続が困難になり、方針の変更を余儀なくされる症例の報告も少なくありません。歯科治療で口腔環境を治療前から整えることで、がんの治療を継続させ生命の維持に貢献することができるのです。

今後は様々ながんの治療についての勉強会や、口腔粘膜の診察の仕方などの情報の発信を通して、地域歯科医療に御協力できれば幸いです。



訪問診療における歯科衛生士の役割は、患者への専門的口腔のケアや間接訓練を行うことで、患者の口腔機能を向上させ、誤嚥性肺炎の予防、摂食・嚥下機能の改善を行い、患者のADL・QOLの向上に寄与することにあります。もう1点は介護者への口腔のケアの指導や誤嚥性肺炎予防の啓蒙をすることです。このようにして行う誤嚥性肺炎予防は、地域医療に歯科衛生士が貢献している重要な点と考えます。

在宅では患者の全身状態を把握し、当日の体調に異常がないか確認します。処置はパルスオキシメーターによりSpO₂を確認しながら行います。患者に合った方法で上肢の可動域訓練・構音訓練などの間接訓練を行い、誤嚥に注意しながらスケーリングやブラッシングなどの専門的口腔のケアを行います。このような訪問の際には歯科衛生士専門学校の学生を同行させ、臨地実習を行っています。

大学病院の歯科衛生士としての今後の展開について、ポイントは2つあります。1つは地域連携です。社会のニーズに対応しながら、歯科の病診連携のみならず医科との連携、他職種との連携も見据えて積極的に訪問診療に関わっていく事。そして1つは、歯科衛生士教育です。社会のニーズにいち早く対応できるような歯科衛生士を育成するために、歯科衛生士学生教育へ協力していく事です。これは歯科衛生士の雇用拡大にも繋がっていくと考えます。

また、近隣の開業医や施設に勤務する歯科衛生士の研修・研鑽の場となるような役割も果たして行きたいと考えています。

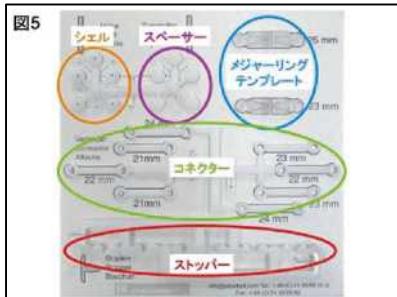


睡眠時無呼吸症候群に対する歯科的対応(2)

スポーツ歯科 講師 中島一憲 准教授 武田友孝 教授 石上恵一

4. スリープスプリントの製作方法(※前回のリレーミニレクチャーの続きです)

今回は東京歯科大学千葉病院スポーツ歯科で用いる頻度の高いエルコデント社の「サイレンサー®(下顎運動許容型のスリープスプリント)」の製作方法を紹介します。



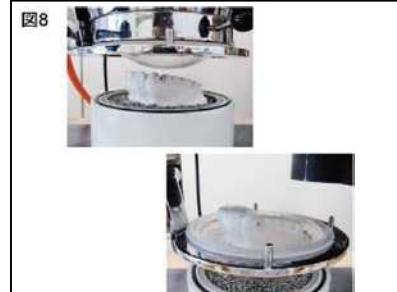
サイレンサーは写真に示すとおりプラモデルのように射出成型されたキットとして販売されています。この中には2種類のメジャーリングテンプレート、スペーサー、各種コネクタおよび固定用のシェルとストップバーが含まれています。



通常に従いアルジネート印象材にて印象採得・咬合採得を行います。このあとサーモフォーミングを行うにあたり、吸引型の形成器を用いる場合は模型材に硬質石膏を、加圧型の形成器を用いる場合は模型材に超硬質石膏を注入します。当科では加圧型形成器のDrufomat®を用いるため超硬質石膏にて模型を作製しています。また、ブリッジのダミー部や歯間乳頭部に大きなアンダーカットなどがある場合には事前にシリコーンパテなどを用いて形態の調整をしておきます。外形が複雑になるようなケースでは外形線を記入しておくと良いでしょう。



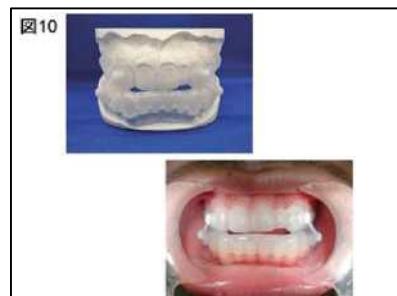
上下顎の装置を連結するコネクタは基本的には上顎両側犬歯唇側面と下顎両側第一大臼歯頬側面に設置します。サイレンサーキットの中には2種類のメジャーリングテンプレートが用意されており、比較的軽症な場合は23mm、比較的重症な場合は25mmのテンプレートを用います。図のようにテンプレートのクロスラインを咬合平面にあわせスペーサーの設置位置を確認した後に速硬性石膏にてスペーサーを固定します。なお、コネクタは左右対称に設置するのが理想とされています。このケースでは25mmのテンプレートを使用しています。



Drufosoft Pro®(エチレン酢酸ビニルの軟性シート)を用いてDrufomatにてサーモフォーミングを行います。その後、バーやポイントを用いて外形調整を行い、形態を整えます。



AHI値や頸関節の可動域、患者の訴えなどに応じてコネクタの長さを選択します。今回のケースでは中等症であることも考慮25mmのテンプレートに対して3mm短い22mmのコネクタを選択しました。コネクタ接続専用のサイレンサープライヤーを用いてコネクタを接続します。



完成したスリープスプリントと口腔内に装着した状態を示します。これを数日間使用していただき、患者の主観的症状改善度や装着による頸関節の違和感などの使用感をもとに必要なコネクタ長の変更を行います。サイレンサーを用いたスリープスプリントの場合はコネクタの交換により前方移動量の調整が極めて簡単に短時間で変更することができます。

5. 最後に

数回の調整を経てスリープスプリント使用による違和感などが無くなった時点で、紹介元である専門医療機関に術後の精密検査を依頼します。我々歯科医師はAHI値の変化に応じたスリープスプリントの調製に対応する必要があります。

OSASの治療はスリープスプリントの装着だけに頼った方針では十分な改善は見込めないとされています。患者への生活指導を含め、専門医療機関との十分なタイアップを行ってこそ、本当の意味での治療効果が発揮されるものと思われます。